

症例報告

半月状線ヘルニア (Spigelian hernia) の一例

笠松 哲司* 遠山 信幸* 中谷 研介*
松田俊太郎* 河村 裕* 小西 文雄*

腹壁ヘルニアの中でも稀な疾患である Spigel ヘルニアを経験したので報告する。

症例は59歳女性。2000年7月頃より右下腹部の膨隆を自覚。その後徐々に増大傾向を認めたため2001年2月近医を受診。手術目的に当科紹介受診となった。腹部CT上、内腹斜筋腱膜、腹横筋腱膜の欠損を認め、Spigel ヘルニアを疑い3月9日手術を行った。腫瘤は、腹直筋外縁の Spigel 腱膜より脱出していた。ヘルニア内容を腹腔内へ還納した後、Spigel 腱膜と腹膜を縫合閉鎖し、外腹斜筋腱膜裏面にマーレックスメッシュシートを補強し、手術を終了した。術後経過は良好であり、軽快退院の後も再発の兆候を認めていない。

(キーワード：Spigel ヘルニア)

はじめに

Spigel ヘルニアは、近年本邦での報告は増加しているが、腹壁ヘルニアのなかでも2%以下と言われており、稀な疾患である。今回我々は、Spigel ヘルニアの一例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

I 症例

患者：59歳、女性。

主訴：右下腹部膨隆。

既往歴：腹部手術歴なし。その他特記すべきことなし。

現病歴：2000年7月頃より、右下腹部の膨隆を自覚。徐々に増大傾向を認めたため、2001年2月当科紹介受診。腹部所見ならびに腹部CTから Spigel ヘルニアが疑われ、手術目的に2001年3月5日入院となった。

入院時現症：身長159cm、体重55kg (Body Mass Index=22)、栄養状態良好。眼瞼結膜に貧血なく、眼球結膜に黄疸なし。胸部に異常所見なし。腹部は、右下腹部に3cm大の軟らかい腫瘤があり、明らかな圧痛は認めなかった。腹圧にて膨隆を認め、手動的に容易に還納できた。

入院時検査成績：異常所見認めず。

腹部CT検査(仰臥位)：膨隆部に一致する腱膜の欠損部位を認めた。腹腔内臓器の脱出は認められなかった(図1)。

手術所見：Spigel ヘルニアの診断で、2001年3月9日手術を行った。

硬膜外麻酔下に手術を開始。術前マーキングしておいた膨隆部直上に横切開を加えた。外腹斜筋腱膜を切開すると、約3cmのヘルニア嚢を確認できた(図2)。Spigel 腱膜に相当する部分より脱出した Spigel ヘルニアと診断した。ヘル

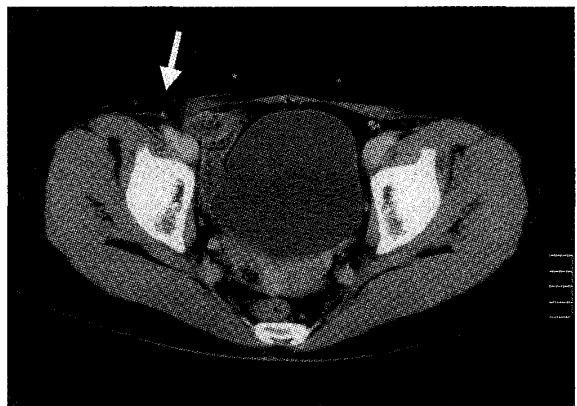


図1 腹部CT所見(仰臥位)
膨隆部に一致する腱膜の欠損部位



図2 術中所見
外腹斜筋腱膜を切開すると、3 cm×3 cmのヘルニア嚢を認めた

ニア嚢を開放し、内容物（小腸）を腹腔内へ還納し、Spigel 腱膜と腹膜を縫合閉鎖し、外腹斜筋腱膜裏面にマーレックスメッシュシートを補強し、手術を終了した。

術後経過：現在、再発の兆候を認めていない。

II 考察

Spigel ヘルニアは、1764年に Klinkosch¹⁾が第1例を報告しているが、その頻度は比較的少なく、本邦報告例は自験例を含めこれまでに27例と少ない⁴⁾⁻¹⁴⁾。Spigel ヘルニアは、両側の上前腸骨棘を結ぶ線より頭側6 cmまでの範囲の Spigelian hernia belt に好発するといわれている²⁾。年齢は、0～82歳、平均61.6歳で、大半が女性に発生している。発症年齢を考えるとほとんどが後天性であり、高齢者、肥満、腹部開腹術既往例などを有する例に多いとされる。

術前診断として、腹部CT検査が有用とされている³⁾。自験例も腹部CTにより腱膜欠損部が同定できた。腫瘤が描出されない場合は、腹臥位などの腹圧上昇時のCT撮影が有用である⁶⁾。

治療は、診断が確定した時点での早期の根治術が望まれる。近年、腸閉塞を合併した Spigel ヘルニアや嵌頓症例も報告されており⁶⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹³⁾、下腹部腫瘤を主訴とする症例は、本疾患を念頭において診療する必要があると思われる。ヘルニア門の大きい症例には、メッシュによる補強が追加されている。自験例は、約3 cmと比較的大きなヘルニア門であったため、メッシュによる補強を行った。

結語

Spigel ヘルニアの一例を経験したので、文献的考察を加えて報告した。

文献

- 1) Klinkosch JT : Quoted by Holloway JK : Spontaneous lateral ventral hernia. Ann Surg75 : 677-685, 1922
- 2) SpangenL : Spigelian hernia World J Surg13 : 573-580, 1989
- 3) Shenouda NF, Hyams BB, Rosenbloom MB : Evaluation of Spigelian hernia by CT. J Comput Assist Tomogr14, 777-778, 1990
- 4) 瀬尾泰雄, 有地茂生 : Spigel ヘルニアの一例. 日臨外会誌57 : 1498-1501, 1996
- 5) 前川 博, 坂本一博, 榊原 宣 : Spigel ヘルニアの1例. 日臨外医会誌58 : 1664-1666, 1997
- 6) 松倉史朗, 湯ノ谷誠二, 中間輝次他 : イレウスにて発症した Spigel ヘルニアの Richter 型嵌頓の1例. 日臨外会誌58 : 2695-2699, 1997
- 7) 沢井博純, 倉橋伸吾, 山中雄二他 : 術前腹部CT検査にて診断しえた Spigel ヘルニアの1例. 日臨外会誌58 : 2700-2703, 1997
- 8) 後藤田直人, 板野聡, 堀木貞幸他 : 半月状線ヘルニアの1例. 臨外54 : 975-977, 1999
- 9) 仲宗根朝紀, 渡部誠一郎, 山口栄一郎 : 外腹斜筋腱膜を貫いた Spigel ヘルニアの1例. 日臨外会誌60 : 3024-3027, 1999
- 10) 浦橋泰然, 吉井克巳 : 絞扼性イレウスを示した Spigel ヘルニア嵌頓の1例. 日臨外会誌60 : 1398-1401, 1999
- 11) 大輪芳裕, 鈴村和義, 小島卓他 : S状結腸が嵌頓した Spigel ヘルニアの1例. 日臨外会誌61 : 509-512, 2000
- 12) 巽博臣, 染谷哲史, 戸塚守夫他 : Spigel ヘルニアの1例. 日臨外会誌61 : 513-517, 2000
- 13) 今村秀, 安藤正和, 三井信介他 : イレウスを発症した Spigel ヘルニア多発の1例. 日臨外会誌62 : 1315-1320, 2001
- 14) 内藤浩之, 呑村孝之, 高橋忠照他 : 外鼠径ヘルニアを合併した Spigel ヘルニアの1例. 日臨外会誌62 : 2543-2546, 2001

A case of Spigelian heernia

Tetsuji Kasamatsu*, Nobuyuki Toyama*, Kensuke Nakatani*
Shuntaro Matsuda*, Yutaka Kawamura*, Fumio Konishi*

Abstract

We report a rare case of Spigelian hernia with a review of the literatures. A 59-year-old woman was admitted to our hospital, showing a localized bulge on her right lower abdomen. Abdominal computed tomography (CT) presented a defect of the aponeurosis at the lateral side of the rectus muscle. Localization of the hernia and the CT findings suggested the presence of the Spigelian hernia. She underwent an operation, including the closure of the hernia orifice and the reinforcement of the abdominal wall with a polypropylenemesh (Marlex mesh). Postoperative course was uneventful. She has been healthy without recurrence of the hernia.

(Key words: Spigelian hernia)

* Department of Surgery, Jichi Medical School, Omiya Medical Center